

# コンサートノーツ

## 石井雅子リサイタル —スペイン歌曲の夕べ—

6月24日  
東京・イイノホール

ソプラノの石井雅子は武蔵野音大を卒業後、1974年からマドリッド国立声楽専門学校に学んでいるが、この度一時帰国してスペイン歌曲によるリサイタルを開いた。

プログラムはルネッサンスから現代までのスペインの歌曲・民謡によるもので、前半は芳志戸幹雄のギター、後半は三浦洋一のピアノで伴奏された。曲目は次のとおり。

I部 “生涯の愛”(L.ミラン) “深い悲しみ”(J.デル・エンシーナ) “アンテケーラの陥落”(C.デ・モラーレス) “バラの泉にて”(J.バスケス) “私を憐れんでおくれ”(M.デ・フェンリャーナ), G.ロルカの民謡集から “ハエンの乙女たち” “ソロンゴ” “チニータス酒場” “セビーリャの子守歌” “18世紀のセビリャーナ”。

II部 “愛と憎しみ” “内気な男” “トゥラララとギターをつま弾き”(E.グラナードス) “お前のものは何もいらぬ” “お前は何か欲しいの”(J.グリーディ) “黒ん坊の子守歌”(X.モンサルバーチェ) “モロ人の織物” “子守り歌”(M.デ・ファリャ) “白い鹿”(E.ハルフテル) “サエータ” “カンターレス”(J.トゥリーナ)。

以上のようにスペインの歌を広い範囲にわたってとりあげており、現在もスペインで勉強中とのことで大いに興味をそそられるコンサートだった。

石井の歌は声自体はまだ十分に引き上がっていないようだが、スペイン的な雰囲気はよ

くあらわしていた。特にグラナードスやグリーディなどは小粋な感じがあって魅力的だった。だが、声はあまりのびきらないようで、ステージでの雰囲気があるだけになお惜まれる。スペイン的、……的以前のきかせる歌としての「声」(発声)を作り上げることができれば、一層の表現力と説得力がもてるのではないだろうか。

そういった意味では当夜は芳志戸のギターが大きな光を放っていた。編曲からその音作りに至るまで彼自身の主張が確実に通っている。時に芳志戸色が強すぎて、もう少し歌に寄ればと思う部分もあったけれど、ルネッサンスものでの透明な音、ロルカでのフラメンコを想わせる張りのある乾いた音は大きな力をもって、普段ギターを耳にすることの少ないと思われる聴衆にも一後半のピアノの湿った音楽と較べるまでもなく一深い印象を与えたとにちがいない。

小川一彦



芳志戸幹雄

石井雅子

## マイエロン & バレストラコンサート

6月26日  
イタリア文化会館ホール

イタリア文化会館の主催による歌とギターのコンサートが開かれた。ソプラノのエリザベッタ・マイエロン Elisabetta Majeron とギターのジュリアーノ・バレストラ Giuliano Balestra のデュオは1969年に結成され、ルネッサンスから現代までの歌とギターとのレパートリーを広く紹介している。今回の来日は1978年2月、79年4月につづいて3回目である。

この日のプログラムは“オットチェント(1800年代)の音楽”と題され、ジュリアーニの歌曲を前後にしてソルの独奏曲がはさまれていた。

初めはジュリアーニのリート(ドイツ語による)が6曲。続いてギターソロでソルのメヌエットーパストラルーワルツ、魔笛による変奏曲。後半はソルのエチュード(月光)とグラン・ソロ、ジュリアーニの「6つのカヴァティーナ」といったものだった。

マイエロンの歌は均整のとれた落ちついたもので品があり、派手さはないが、ギターの伴奏によくのって豊かな情感が伝わってくる。

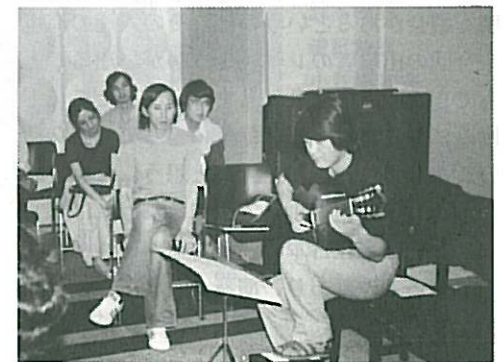
ギターのバレストラは1972年に“フェルナンド・ソル”国際ギター・コンクールを創出し、その会長をつとめているということだが、ソルの古典的構成的な面よりも、ギター的な繊細な美しさの表現に重きをおいているようだ。音はやわらかく甘く、迫力には欠けるけれども、優雅な室内楽の雰囲気にあふれているし、伴奏のうまさはやはりキャリアを感じさせる。

今回の来日では他に“ルネッサンス期のアリアと舞曲”というプログラムでも一タのコンサートをもっていた(6月4日)。彼らのコンサートはイタリア文化会館におけるものみだが、歌の人にもギターの人にももっと広く聴かれてよいものだろう。

## 第2回日曜ギターコンサート

6月22日  
横須賀小林楽器  
ヤマハショールーム

金魚すくいなど初夏の風物詩が見られはじめた、横須賀メインストリート。その賑わいを避け、少し裏手の通りに足を進めるとその様に静かな街並がある。その一角、小林楽器にて行われた。このコンサート、今回は佐藤紀雄を迎えて。プログラムはD.スカララッティ「2つのソナタ L. 297, L. 238 (J.トーマス編)」, F.ソル「アンダンテ・ラルゴ (Op. 5より)」, R.シューマン「2つの小品 (A.セゴビ



●トクジの「ギタリストの手料理」大好評に  
 終り、今月からは中林氏によるFishingです。  
 どうぞ毎回お楽しみに！

さて、私からもものすごく簡単なスペイン  
 のマカロニ料理を一つ。

- ・ひき肉（あいびき 150g）をフライパン  
 でいためる。塩、コショウはお好みの量。
- ・いたまった頃合をみてトマトの水煮（素  
 材かん詰）一かんを入れる。

- ・大きなナベでマカロニを 400g 10 分間程  
 ゆで、水を切ってから、フライパンに入  
 れ、10 分程ひき肉トマトと共に煮こむ。  
 これで 4 人前出来上がり。マカロニのこし

がなくなってベロベロになるだろうって？

いや、これがまたうまいのです、その柔ら  
 かくなってひき肉トマトを吸った味が、  
 （サラミソーセージを入れると、更に異国情  
 緒が出ます。）

以上 1 人前 100 円の軽食。 芳志戸

●先年の秋、今思い出したのですが、何んと  
 横浜の山下公園で、小イワシと高級魚サヨリ  
 が回遊していました何人かがジャンジャン釣っ  
 てまして、私もコウフンして早速と思ったの  
 ですが、何せ有名な公園なので外野が多く心  
 静かになんて出来ないムードなので挫折して  
 しまいました。でもとってもやってみたくの  
 でどなたか御一緒する方いらっしゃいませんか？  
 その後は勿論、イワシのカラ  
 揚げでビール、サヨリの刺身で酒なんていい

最近、本誌のバックナンバーについての問  
 い合わせが大変多くなりました。バックナン  
 バーを御希望の方は、現金書留にて編集部ま  
 でお申し込み下さい。（送料は一冊につき 40  
 円です）

と思いませんか？ 徳 二

●グランギタリストの来日ラッシュの  
 はレッスン日の遺線に悩まされます。××の  
 遺線は云うまでもありませんが。

それはさておいて、偉大な B. Y. S. ....  
 スペイン語圏のマエストロ方に接するとき在  
 西時代の思い出ばかり浮びます。小川さんも、  
 お元気で、良い日々を！ 片岡

●今月号から、マイ・ホビーのページが釣り  
 の話しになりました。ギタリストの手料理に  
 つづき、またまた、楽しいページになるでしょ  
 う。料理と釣りが逆だったら良かったかな？  
 などと反省しています。それはともかく、た  
 まにはのんびりと糸をたれてみるのも、精神  
 衛生上とても良いと思います。楽しんで下さ  
 い。 坂爪

●久しぶりに里（長野市）に帰ってきました。  
 戸隠はあいにくの雨でしたが、大自然に抱か  
 れて一息チョッピリ生きかえったようです...  
 モロ

●今月号のセゴビアの記者会見やレセプショ  
 ンの写真、いかがですか。時々、当誌の写真  
 への苦情を聞きますが、全て私達が撮ってい  
 るとは限りませんので、悪しからず... 前川

月刊 ギターニュース  
 昭和55年 9月1日発行  
 発行所 社団法人日本ギター連盟  
 〒164 東京都中野区中野  
 2-21-4  
 TEL 03(383)1819  
 発行責任者 荘村正人  
 編集責任者 芳志戸幹雄  
 印刷 刷銀座印刷  
 定価 200円

# 音楽する喜びをあなたに

—ギターラ社にお任せ下さい—

大衆ギター  
 国産手エギター  
 輸入高級ギター  
 リュート、ピエラ  
 チェンバロ  
 パイプオルガン  
 リコーダー  
 ヴィオラ・ダ・ガバン  
 トラベルソ  
 他古典楽器  
 楽譜・弦・備品



ギター教室  
 \*クラシック  
 今野有二(木)  
 篠原正志(金)  
 浜田三彦(木)  
 小山勝田  
 リコーダー教室  
 大竹尚之(木)  
 飯室謙(木)  
 品川治夫(金)上  
 チェンバロ教室  
 秋光豊子(木)  
 及川真理子(木)  
 入会随時  
 初心者歓迎



ギターラ社 〒150 東京都渋谷区渋谷1-23-21 ☎(03)409-3395  
 東京古典楽器センター 〒150 東京都渋谷区渋谷1-23-19 ☎(03)409-3396